

初期日本語教育及び人材育成への 対応(案)について

初期日本語教育に関する対応案

背景・課題

- 外国人住民が日本語を学ぶことは、日常生活を送るうえで必要となるだけでなく、行政から就学案内や避難所の場所などの必要な情報を届けるためにも不可欠である。
- 外国人住民のうち、日本人と結婚した方やその子供、家族の仕事について来日した方などは、留学生等と違って日本語を学ぶ機会がないため、地域で日本語を学ぶことが重要である。
- 地域で日本語を教えている日本語教室の支援者はボランティアが担っていることが多いが、ほとんど日本語を学んだことのない外国人住民を対象とした初期の日本語教育は、指導する側に専門知識が必要であることなどから、現状の日本語教室では対応できる人が少なく、受入れが難しいという声がある。
- 自治体によっては既に行政主導で初期日本語教育を実施しているが、日本語教育そのものに取り組んでいない地域も多く、それらの地域で初期日本語教育が実施されるには時間がかかるため、実施されていない地域の在住外国人を対象とした施策が求められている。

- **モデルとなる日本語教室を開催しながら、ワーキングにおいて、どのようなニーズを持つ受講者が多いのか、効果的な指導内容や指導方法、オンラインでも初期の日本語教室開催が可能なのか等を検討し、今後の施策立案に活かす。**

初期日本語教育に関する対応案

1 初期日本語教育に関する検討 実施方法

(1) 有識者ワーキングの設置

有識者（5名程度）によるワーキングを設置し、モデル日本語教室の実施方法等について協議するほか、実施結果を元に、今後実施する初期日本語教育に関する施策について検討する。

※有識者想定：日本語教育の学識経験者、初期日本語教育を実施している自治体関係者、日本語教室関係者 等

(2) モデルとなる初期日本語教室の開催

初期日本語教室に関する知見を得るため、モデルとなる初期日本語教室をオンラインで開催する。

開催にあたっては、実施方法について事前にワーキングで協議し、実施経過や報告をその都度ワーキングで報告する。

2 初期日本語教育に関する検討 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有識者ワーキング	有識者 依頼		有識者 打合せ	ワーキン グ① 開催		ワーキン グ② 開催				ワーキン グ③ 開催		ワーキン グ④ 開催
モデル日本語教室					← 参加者募集		→ 日本語教室開催（3か月）					

人材育成に関する対応案 ー 日本語学習支援者スキルアップ研修 ー

背景・課題

- 都内在住外国人への日本語支援は、都内に約300ある日本語教室（区市町村及び国際交流協会主催、NPO主催、民間団体など）の支援者に支えられている。
- 文化庁が地域日本語教育のためのオンライン日本語教材を作るなどの動きがある。
- コロナウイルス感染症やウクライナ避難民などの社会情勢と日本語教育は密接に関わっているため、地域日本語教育においても教室のオンライン化など、常に新しい課題が生まれている。
- 日本語教室の支援者からは、専門的な知識を学ぶ機会や、他の教室の支援者と意見交換する機会がなく、活動内容などについて悩んでいるという声が多い。

新たな教え方や
状況への対応が必要

- 日本語教室の支援者が専門知識を学んだり、意見交換をする機会を設けるほか、支援者同士のネットワーク化を図ることで、都内の地域日本語教育がより充実した体制で実施できるようにする。
- 毎年研修を開催していくことで、多くの支援者が知識を身に付け、都内全域で支援者のネットワークができることを目指す。

人材育成に関する対応案 ー 日本語学習支援者スキルアップ研修 ー

1 日本語学習支援者スキルアップ研修 目的

- ① 都内の日本語教室で活動する支援者を対象に、専門知識を学ぶ研修を開催することでスキルアップを図る
- ② 支援者同士が意見交換や交流する機会を設けることでネットワーク化を図る



2 日本語学習支援者スキルアップ研修 概要

(1) 実施方法

- 対象者は、都内の日本語教室（区市町村及び国際交流協会主催、NPO主催、民間団体など）で活動する支援者のほか、地域日本語教育を実施している行政機関の職員など。
- 地域日本語教育に関する専門知識や、社会情勢の変化による新たな課題に対応するための先進事例などについて学ぶ。
- 講師は日本語教育の専門家のほか、研修で取り上げる課題に応じてその都度検討する。

(2) 研修内容

テーマ：日本語の指導方法のほか、日本語教室のオンライン化にどう対応するか、子どもを対象とした支援をどのように実施するか、国が作成した新たな日本語教材の活用方法など、新たな課題について取り上げる。

スケジュール（例）：

- 13:00-14:30 日本語の指導方法に関する講義
- 14:30-15:30 新たな課題に関する先進事例などの紹介
- 15:30-16:30 グループディスカッション